

## 2020年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 見てもようよ！常総市の会

代表者・役職名 氏名 染谷みどり

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

水害の記憶を未来につなぐケータイフォト町歩きツアー

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成28年1月設立の「見てもようよ！常総市の会」は、設立の前年である平成27年(2015年)9月の関東東北豪雨で市内を流れる鬼怒川堤防が決壊、市中が水に浸かる大水害を受けた常総市において、水害の記憶を風化させず、“川とともに生きる”まちの歴史と文化を掘り下げながら、防災啓蒙を市民の手で進めていく市民の会です(会員10名)。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

水害5年を経て市民の中には、もう水害の話は思い出したくない、という感覚もあります。しかしながら、ケータイフォトなど新たなツールをつかって街歩きツアーを楽しんでもらったり、カヌー体験を川で行うことで、水害の歴史を含む街への新たな自分なりの発見や、川に親しむことで川を身近に感じることを、経験してもらい、これらの体験により会の活動を理解していただくようにします。結果として、会への参加者を増やし、水害の記憶を継承するという本来目的を少しずつでも推進することが出来ると考えています。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「水害の記憶を未来につなぐケータイフォト町歩きツアー&ディスカッション」と「カヌー体験&ディスカッション」の2本のイベントを実施しました。

「水害の記憶を未来につなぐケータイフォト町歩きツアー&ディスカッション」は、中心市街地・水海道地区の“発見まちあるき”です。常総市内では復興により5年前の関東東北豪雨の爪痕がなくなりつつありますが、注意してみるとまだまだ街の至るところ水害の跡が残っています。街歩きでこうしたシーンや街の面白いところをガイドとともに探し、ケータイで写真を撮り、最終的にそれをPC上のソフトで地図におとして水害痕跡マップや写真集を制作しました。

「カヌー体験&ディスカッション」は、小貝川でカヌー体験をしてもらい、その後参加者に、川魅力を活化したまちづくりについてをディスカッションいただく中で、洪水時の危険と平時の川の魅力をともに見つめる視点を獲得いただきました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

コロナ禍の中でしたが、街歩きのほうは23名、カヌーイベントの方は13名の参加者を集めることができました。街歩きのほうは、ケータイフォト地図上にプロットして集合知マップをつくる試みは参加者のスマホリテラシー不足で半分程度しか成功できませんでしたが、その後行ったまちづくり討論会では、水海道の活性化を願う、世代と性別、立場が異なる方々が初めて並んで対話し、復興を誓い、盛り上がりを見せました。カヌーイベントのほうは、一般に混じって常総市長・副市長、下館河川事務所長と水海道出張所長、関東鉄道の幹部など官民キーマンに参加いただき、水害体験の継承と川を活かしたまちづくりについての熱いディスカッションを展開することができました。こうした討議の中で、異なる立場の人が繋がり、安全なまちづくりへ意識を合わせていくことが出来たことが最大の収穫です。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

イベントの実施は、コロナ禍で参加者を集めるのが大変で、展開方法を検討せざるを得ない状況です。次年度は、多くの人を集めるイベントではなく、スタッフと(当時の)水害被災者だけで成り立つ映像記録の作成にシフトし、集合型のイベントは関係者の上映会という形のみとし、コロナ収束期に備えた“記録まとめの時期”としたいと思います。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。